

足利工業大学都市環境工学科 ○学生員 石井 雅修
足利工業大学都市環境工学科 正会員 為国 孝敏
足利工業大学大学院 学生員 塚本 健太郎

1. はじめに

近代土木遺産は、社会性（歴史性、文化性）を持つ地域資産と考えられる。この活用事例に関しては、従来、地域性について十分な分析がされていないために、構造物の具体的な整備が中心であった。

そこで本研究では、インターネットデータから近代土木遺産の活用事例を収集するとともに、地域性の視点から活用状況について分析を行うこととする。

2. 取り扱うデータ

平成 13 年 3 月に土木学会より刊行されている「日本の土木遺産—現存する重要な土木構造物 2000 選」で A ランクの評価を得ている構造物データをもとに、インターネットから活用事例を収集し、それをデータとして取り扱うこととした。

3. 第一次データベース

まず、インターネットを利用し事例の収集を行った。検索キーワードは、第一段階を「構造物名称」とした。検索出来ない場合はヒット件数の絞込みを考慮し、第二段階として「近代土木遺産、保存・活用、完成年、所在地、付帯情報、形式、文化財等」をそれぞれ組み合わせ、再度検索した。

インターネット調査は、収集・検索の人為的ミスが発生する可能性も考えられるので、都道府県ごと二回にわたる調査を行った。一回目の調査では、432 件中 227 件がリストアップされ、二回目の調査ではさらに 19 件が追加されたため、A ランク総数 432 件中 246 件の活用事例が収集された。この結果を構造物種別に分類すると図-1 に示すように、橋梁 160 件中 89 件、隧道 35 件中 17 件、堰堤 50 件中 28 件、堤防 32 件中 9 件、水門 23 件中 20 件、建屋 105 件中 70 件、その他 18 件中 13 件となった。

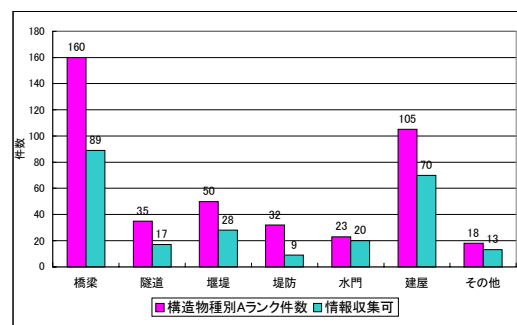


図-1 構造物種別件数

4. 第二次データベース

(1) 活用事例の種別集計

インターネットデータから得た活用事例 246 件を活用種別別に分類すると図-2 に示すようになった。全体で核施設化が 21.8%、博物館化 12.8%、公園 27.6%、修景 10.1%、日常使用 27.6%、放置 0%と分類され、公園化や日常使用としての活用が多いことが分かる。構造物別の分類を図-3～9 に示す。

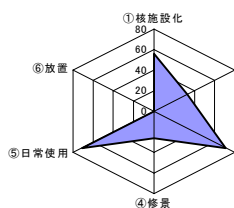


図-2 全国

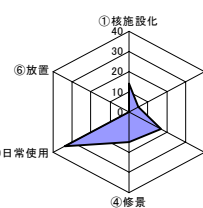


図-3 橋梁

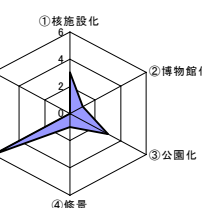


図-4 隧道

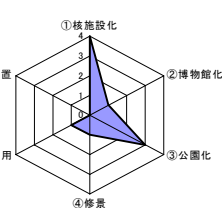


図-5 堰堤

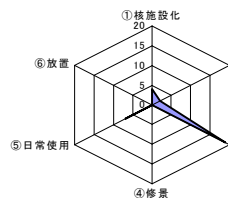


図-6 堤防

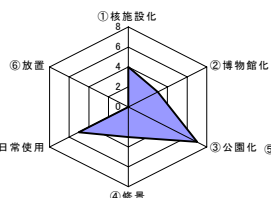


図-7 水門

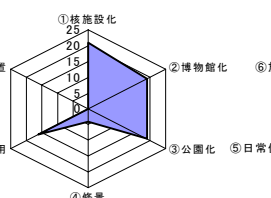


図-8 建屋

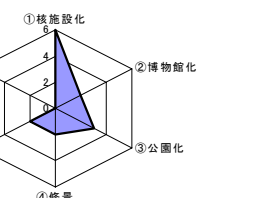


図-9 その他

(2) 地域性からの分析

インターネットデータを

- ・地域性 A (地域資産①・地域資産②)
- ・地域性 B (情報提供度①・情報提供度②)

の二点から評価した。評価基準を表-1、2 に示す。

地域性 A の地域資産②、地域性 B の情報提供度②においては、本調査で得られたデータのみで評価が出来ないため、評価基準をもとに再度インターネット調査を行い、評価した。また、今後の活用を考慮して、名称のみも検索を行い評価した。この評価を地域性 A (図-10)、地域性 B (図-11)、調査項目 (名称) 検索件数 (図-12) に示す。

5. 構造物種別分析

次に地域性からの分析を構造物種別で分析した結果を下記に示す。

- ・ 橋梁: 地域資産としての活用が高く見られる。構造物への愛着も高い。
- ・ 隧道: 視覚的活用が難しい構造物であるが、地域から愛着を得ている。
- ・ 堰堤: 構造物の所在する地域での愛着が得られていない。
- ・ 堤防: 地域資産としての活用が見られるが、構造物の所在する地域からの愛着が得られてない。
- ・ 水門: 構造物の所在する地域へ徐々に愛着が生まれてきている。
- ・ 建屋: 地域資産としての活用が高く見られる。構造物への愛着が高い。
- ・ その他: 構造物の所在する地域からの愛着がある。

6. まとめ

本研究では、インターネットから収集した活用事例を地域性の視点から分析し、以下の結果を得た。

- ① 構造物への整備事例を収集した。
- ② インターネットデータは地域性の内容を十分含んでいる。
- ③ 構造物種別ごとに構造物の所在する地域での愛着が出てきている。
- ④ インターネットで近代土木遺産が紹介されることが活用と考えられる。調査項目 (名称) のみの検索件数、A ランク総数 432 件中 395 件は活用の第一段階と言える。

今後は、インターネットデータを地域性から分析する際の評価基準の妥当性を検討する必要がある。

参考文献

- 1) 土木学会:「日本の近代土木遺産ー現存する重要な土木構造物 2000 選一」土木学会, 2000. 3
- 2) 文化庁歴史的建造物調査研究会:「建物の見方・調べ方近代土木遺産の保存と活用ー近代土木遺産の保存と活用ー」, ぎょうせい, 1998. 7

表-1 地域性 A

	項目	評価基準
地域資産①	(1) 風景・景観	・自然環境をアピール、景観美
	(2) ランドマーク	・地域では、陸標の役割、シンボル
	(3) まつり・イベントの舞台	・まつり・イベントの舞台
地域資産②	(1) 地域個性の表現 (歴史、地形)	・構造物が造られる背景
	(2) 地域への貢献度 (経済効果)	・地域の発展と関係している

表-2 地域性 B

	項目	評価基準
情報提供度①	(1) パンフレット	・配布中である状態または、それを表示
	(2) 友の会・保存の会	・構造物への愛着から活動している団体
情報提供度②	(1) 地図	・ページ内または、リンク先の地図 ・YAHOO! トップページ上の地図
	(2) 文献	・インターネットから文献の紹介 (2冊)
	(3) 調査項目 (名称)	・調査対象の構造物の名称

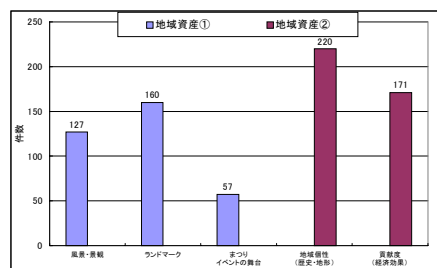


図-10 地域性 A

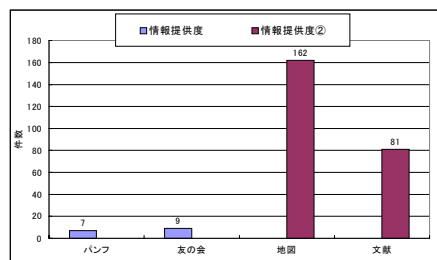


図-11 地域性 B

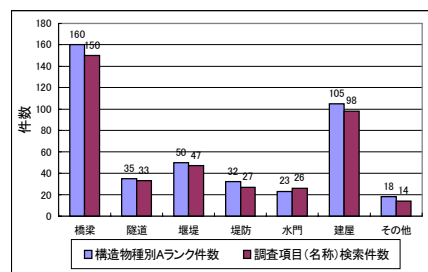


図-12 調査項目 (名称) 検索件数